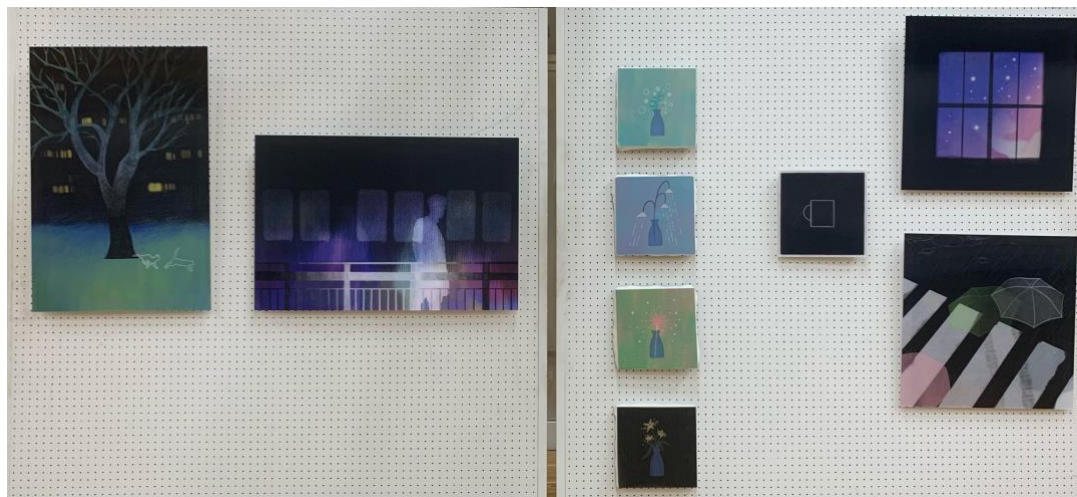


孫 曉鈺

SUN Xiaoyu



存在している

デジタルプリント

存在している

人間の歴史において最初の頃、人間は自分自身や世界の変化を測るために時間を定義した。その後、人間は変化によって時間を感じるようになった。この変化が「痕跡」だと考える。時間は不可逆的であり、その痕跡は私たちの周りに無数に存在する。時間は物事の変化を測る尺度だけでなく、様々な形で痕跡を残す。人々の考えや経験、成長にも影響を与え、内面にも痕跡を残すことができると考えている。

作品のモチーフは日常生活で感じる時間の痕跡である。日常の中で感じる瞬間的な時間と、その積み重ねが人生においてどのような役割を果たすか。これらの時間によって重ねられた痕跡が、今のような人間になった。つまり、人間の人生とはこれらの痕跡から構成されている。客観的に存在するものと、その客観的な存在から主観的な発想を展開し、主観の感情や印象によって心象風景を制作した。異なる「版」の画面を使用して、同じテーマを異なる感覚で表現した。静止した物事の中で流れる時間を感じ、アニメーションのように、同じ画面上で時間の流れを表現する。制作過程で、鉛筆の質感を活用し、画面により柔らかく平穏な印象を与えた。

展示で使用するはレンチキュラー印刷とは、見る角度によって絵柄が変化したり、立体感が得られたりする印刷物のことである。この技術を利用することで、静止した印刷物に動的な要素を取り入れ、過去、現在、未来の変化や時間の経過を視覚的に捉えることが可能となる。印刷物が動くように見えることで、鑑賞者に独自の視覚的体験を提供することができる。

デジタル処理を行いながらパソコンの中で「版」を作る。「版」という物質は目に見える状態で存在するが、デジタル版画の「版」はパソコンの中に「レイヤー」という名称で存在している。既成の版画とはひと味違った作品表現が可能になると思われる。伝統と革新を融合したデジタル版画表現の幅が更に広がったと考えており、積極的に進めるつもりである。

作品を通じて、永遠の時間の中で、平穏かつ長い変化を表現したい。